

冬を告げるブリ

「グラバー図譜」の中から、一点ずつクローズアップし、山口敦子教授に解説していただく人気コーナー。今回は今季の季節ならは、ブリです。「ブリは、北海道以南の日本と韓国、中国沿岸にかけて分布するスズキ目アジ科ブリ属の魚です。最大では全長一・五メートルを超える回遊魚で、師走の頃に美味しくなることから、鱒と書きます。富山県の氷見ブリのように寒い地域で有名ですが、産卵場は東シナ海などの暖かい海域にあります」。

魚へんに師走で「鱒」とは納得です。しかし、アジ科の魚だったとは意外ですね。

「日本近海のブリ属にはほかにヒラマサ、カンバチ、ヒレナガカンバチが知られており、統計ではブリ類とまとめられています。長崎県でのブリ類漁獲量は全国一位。漁獲が冬に集中する富山県などははるかにのびく漁獲量です。ブリの多くが定置網で漁獲されます。定置網とは、沿岸を回遊する魚を網の中へと誘導して獲る漁法で、その特性上、網を設置する位置や網張りの方法がほんの少し違うだけで漁況が左右されます。学生の頃、研究のために初めて同行させてもらった漁業が、寒い冬の日のブリ定置網でした。漁師さんは早朝、網揚げの前には必ず、網口に設

る説など、さまざまに考察されています。

ブリの産卵は晩冬から春にかけて行われ、全長三センチメートルくらいの稚魚になると体に横縞ができ、流れ藻に付くようになります。この習性から藻細魚、すなわちモジャコと呼ばれるようになったといえます。九州や四国南部の沿岸では四月〜五月にかけてモジャコ漁が行われます。養殖用の種苗とするためです。ここで難を逃れたモジャコは日本海と太平洋側に分かれて成長し、その後、流れ藻を離れて沿岸の浅所に向かい越冬します。おおむね二〜三歳になると産卵場を目指して初めて南下し、その後は産卵後の北上、産卵期の南下を繰り返すようになります。日本海で調査をしていた頃は、脂の乗った寒ブリを食してブリは日本海に限る!と思ったものでした。そして、長崎に赴任してきたばかりの頃、あまり期待せずに芯で獲れたブリを食べてみると……、それは予想を覆す美味しさでした。脂も身の締まり具合も北陸のブリとは違うのだけれど、長崎の地で食べると妙にしっくりくるのです。これこそが長崎の味だと気づかされました。私自身も年を重ね、移り変わった四季の景色と同じく、その土地だからこの味わいを心から楽しめるようになってきました。命をいただいで生きているなあと実感します。

置した魚群探知機の記録をチェックして「おー、今日はイシダイ三百匹、シユモクザメも少し入ってるな」なんて予言します。今日は何が見られるのかとワクワクしながら網揚げをお手伝いしていると、色彩豊かな大小の魚影が姿を現し始めます。そして……予言的中、漁師さんの話通りの魚が入っているのは驚いたものです。ブリ定置網は、網に入ったブリが逃げ出さないように、さらに奥の袋網に誘導される仕組みになっています。この最後の網をあげるのがブリ定置網漁のフィナーレ。何百もの人きなブリが激しい水しぶきをあげながら姿を現す様子は圧巻です。漁師さんはその網を貯金箱と呼んでいました。確かに、うまくいけば瞬く間にたくさん新鮮なブリを手にするわけで、中身のわからない海の貯金箱を開けるようなものです。定置網は四季折々に変化する魚類相を肌で感じられること、何が獲れるかわからない面白さが魅力です」。

縁起の良い 出世魚

「ブリの語源について、「魚名考」では、あぶらの略転でアブラがブラ、ブリ、となったという説や、老魚の意味で、年経るたる「老」りにより、ブリ、これに濁音をつけたものとす

さて、古くは武士が成長すると名前を変えたように、成長につれて呼び名が変わる魚を出世魚といえます。モジャコ以降、六十センチメートルくらいまでは各地でイナダやワラサ、ヤサ、ハマチ、フクラギなどの名で呼ばれ、八十センチメートル以上で成長したものがブリと呼ばれます。長崎など西日本の各地には、お正月のお雑煮に出世魚であるブリを入れて食べる習慣があります。縁起が良いからです。ブリ料理の中で私の一押しはブリ大根。ブリ独特の臭みを出さないように、ブリからの出汁を大根にしつかり染み渡らせて薄めの味で仕上げたものは絶品です。最近では天然ブリの味を知らない人が増えているのだとか。残念です。天然の魚の味を知ってもらいたい。関心をもって知ること、それが海を守ることにつながると思っております。平成最後のお正月、縁起もののブリで運氣を味方につけましょう。

【筆者プロフィール】
長崎県立総合研究科教授、一九七四年
「小学館図鑑」日本魚類図譜「小学館」



解説 山口敦子
長崎大学水産・環境科学
総合研究科教授

Atsuko YAMAGUCHI
東京大学大学院農学生命科学
研究科博士課程修了。
2000年から長崎大学。専門
はエイやサメなど魚類学と水産
資源学の研究。主な著書に
『干潟の海に生きる魚たちー
有明海の豊かさ危機』(東海
大学出版)など。



Glover Atlas

ブリ

Seriola quinqueradiata
画家 長谷川雪香

グラバー図譜

日本西部及び南部魚類図譜

Fishes of Southern
& Western Japan

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lib.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>

「グラバー図譜」は、長崎の実業家であった
倉場富三郎氏が編纂したコレクションです。
日本四大魚譜の一つといわれています。